

地区社協だより

ひらど ハートプラン

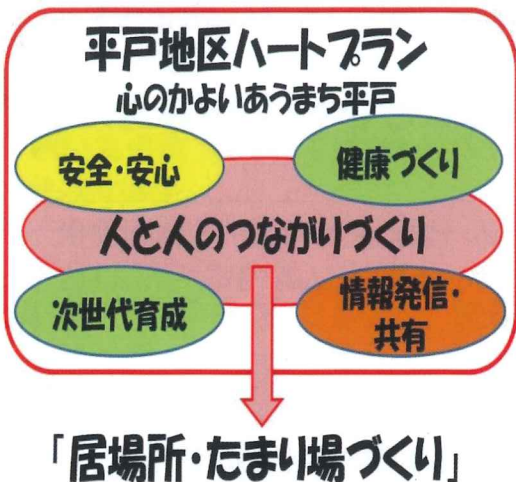
第2号
2019年12月

平戸地区社会福祉協議会 / ハートプラン懇談会

「ひらど♥ハートプラン」は令和元年度「とつかハートプラン補助金」により作成しています。

ハートプラン推進の集い

8月17日(土)14時から、平戸台小学校コミュニティハウスで開催されました。
平戸地域の地域活動に関わる方々、関心のある方々92名が参加され、「居場所・たまり場づくり」というテーマについて講演を聞き、話し合いました。



講演内容

『地域福祉保健計画の推進と地域でのたまり場・居場所づくり』

講師：駒澤大学教授 川上富雄先生

♥「たまり場」の必要性、「たまり場」とは

- 家族の形・働き方の変容などから、**孤立、孤食、安全、仲間、生きがい、情報、健康**など、さまざまな理由から「居場所」のニーズが高まっています
- 「たまり場」とは = ご近所さん同士が集い、**交流を通じて・相談し合う、地域のお茶の間。**
- ・【場所】公民館・自治会の集会所、個人宅、空き家、空き店舗、空き教室、公園・どこでも
- ・【内容】お茶会、会食、おしゃべり、カラオケ、散歩、スポーツ、..なんでも、「何もしない」もアリ
- ・【効果】社会参加と新たな出会い/**人間関係づくり・情報提供/情報交換**

♥「たまり場」づくりの取り組み方

- **主体 = 地域住民** 身近な地域で行われるもので、その運営を中心的に担うのは地域住民
《住民主体の運営 = 自由に、無理なく、楽しく、みんなで、対等に、経済的に》
- ・「活動 = 楽しく!!」⇒ **義務感でなく「遊び心」・無理なく/楽しい活動**
- ・「**共に運営に参加し、共有する時間を楽しく過ごす**」という発想が大切
- ・後継人材不足⇒ やりがい/楽しさを啓発⇒ **積極的PR (見せる活動/上手な巻き込み)**

話し合い・アンケートの内容

参加された方々から次のようなご意見がありました。

- ♥「楽しく、遊び心で」に共感
- ♥活動への関わり方のヒントを得た
- ♥老人会にできることがあるのでは?
- ♥小さな活動を生み出すためのサポートは重要
- ♥情報共有・情報交換が重要 ..

今後のハートプラン懇談会の活動

■ 地域の情報を共有し、問題を話し合う

地域で行われている様々な行事や活動を支え、改善し、新たな活動や担い手を生み出すには、具体的な活動を進めるだけでなく、

地域の情報を共有し、問題を話し合うことが重要です。

「ハートプラン懇談会」では平戸地区の各自治会・町内会・老人会や民生委員・保健活動推進員などの地域活動に係わっている団体の代表者が集まり、情報交換し、地域の問題を話し合っています。



■ 「ひらど♥ハートプラン」による地域活動の積極的PR

平戸地区全体の行事や事業だけでなく、自治会単位やさらに小さな活動にも目を向け、いろいろな事例を紹介します。

こんな活動があります。こんなやり方があります。こんなことをやってみませんか？

という情報をどんどん提供していきます。

ハートプラン懇談会では、地域の情報共有のため、また、情報発信のため、皆様からの積極的な情報提供をお願いします。今回本紙に載せた記事のような些細なことでも構いません。また、「こんな情報が欲しい」というご要望もお聞きします。

■ 地域の問題、地域活動の相談窓口

地域の方々からいろいろなご相談を受け、一緒に考え、できることを手伝い、他の団体・組織との連携を仲介したりして、地域活動を支援します。

「ハートプラン懇談会」は平戸地区の地域活動についての「話し合いと情報共有の場」です。ご意見・ご感想・ご質問・情報提供などをお待ちしています。何でも大歓迎です。

ハートプラン懇談会 ✉ hirado_heartplan@yahoo.co.jp

「まかないくん」が大活躍— 芹ヶ丘自治会「餅つき大会」

「まかないくん」は平戸台小学校の地域防災拠点に炊き出し用として配備されている大型の釜で、防災拠点運営委員会が災害時の器具の使い手の育成に役立つという観点で地域行事での使用を許可しました。

12月1日に行った芹ヶ丘自治会餅つき大会では、「まかないくん」の最大100リットルの容量と高火力の灯油バーナーで、とん汁約400杯分を一回で煮込み、もち米の蒸し時間も大幅に短くなりました。

使用にあたっては、使用法に習熟した防災拠点運営委員が立ち合い・指導しました。皆様の行事での利用を考えてみませんか？



災害時のペット同行避難について — 芹ヶ丘自治会 —

芹ヶ丘のペットの飼い主さんに次のような呼びかけをして、話し合いを始めました。

横浜市には約 18 万頭の犬が登録されており、他の小動物も飼われています。
横浜市は多くの飼い主がペットを連れて地域防災拠点(避難所)に避難する事を想定して、避難所の運営方法の「ガイドライン」を示しています。

災害時のペット対策 横浜市 🔍 検索

皆さんの避難所・平戸台小学校防災拠点運営委員会では、皆さんのご意見を聞き、ご理解いただけるようなペット対応のルール作りに取り組んでいます。



「芹ヶ丘・飼い主の会」をつくりましょう

ペットを飼っている皆さん、「飼い主の会」をつくり、日ごろから「災害時のペット同行避難」について話し合い、ペットを飼っていない人たちにも理解を得られるようなルール作りに参加しましょう。実際に避難所に避難した場合、「飼い主の会」の方々と協力してペットの飼育・管理をしていただくことを検討しています。



寄稿「ご苦労さまでした 矢部寛治さん!!」

小学生の見守りを毎朝つづけてきた平戸町の矢部寛治さんがこのほど10月いっぱい引退しました。最後の日には平戸台小学校の校長先生が花束をもってかけつけ、一緒に活動している仲間と拍手で長年の労をねぎらいました。

矢部さんは平戸小学校が開校してまもなく国道での小学生の痛



ましい事故を目の当たりして決意したといえます。それ以前にも境木小学校の関わりで交通安全の旗を振っていたといえますから50年以上ものボランティアです。地元で育ったお父さんやお母さんたちの記憶に残っていることでしょう。大きな事故もなく安全な通学ができたことは矢部さんのおおきな功績です。

いまは「平戸台小学校・見守り隊」というボランティア組織にまで発展し、毎朝の登校班と一緒に安全登校を見守る活動に広がりました。PTAの校外委員や保護者のみなさんも交代で参加するようになり、矢部さんを見習った活動はこれからも続けられるでしょう。

“矢部さん! ほんとうにご苦労さまでした” (芹ヶ丘見守り隊・天沼松次郎)



こんな小さな活動もあります

平戸住宅自治会の国道1号からの入り口にある小さな花壇です。

雑草が生えていたところを地域の住民が自発的に、花壇にして管理しています。土木事務所の許可をもらっていますが、自治会でも公園愛護会でもありません。補助金もありません。花の苗は有志から分けてもらったそうです。



特集：防災

■大災害での被害を減らすためには、自助・共助が大切です！

9月1日に行われた防災拠点訓練で配布されたパンフレットの一部です。

地域防災拠点とは



- 震度5強以上の地震が発生した場合に開設★地震以外では開設しません
- 自宅に住めなくなった人が避難生活を送る場所
地域住民代表(で構成する「防災拠点運営委員会」)が運営します
備蓄食料は200人程度の2～3日分しかありません
★自宅に住める場合、自宅で生活してください
★避難する人は食料・物資を可能な限り持参してください
- 地域の情報共有・物資配布の拠点
★備蓄物資は避難所の生活者用に優先使用します
★支援物資の配布は4日目以降になります
★在宅避難者への配布は各自治会・町内会を通じて行います

となり近所で助け合いましょう

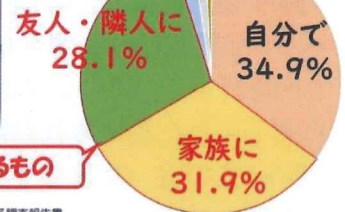
地震発生直後、救急・消防は間に合いません

となりの家の人を助けるのはあなたです。

阪神・淡路大震災や東日本大震災、熊本地震など、過去の大きな災害では、生き埋めや建物などに閉じ込められた人の大半が自助・共助により助けられました。

「共助」

- 地域で支えあう
- 初期消火
- 救出救護
- 避難支援 など



人命救助の約6割は「共助」によるもの

阪神・淡路大震災で人命救助された人の内訳
出典：(社)日本防災学会・兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書

■台風でも、大規模な停電が！

9月9日に通過した台風15号は千葉県で最大瞬間風速 57.5 m/s を記録し、建物等に甚大な被害が発生しましたが、広範囲に発生した停電が長期間回復しなかったことが注目されました。

停電によって電力の必要な設備はすべて停止し、長期間の断水・電話不通などを引き起こしました。

★停電を起こさないために 私たちにもできることがあります★

今回の停電では、電柱や電線の付近にある樹木が、電柱倒壊や断線の引き金になったものが多く、また、倒壊した樹木が工事を難しくして、復旧の遅れの一因になっています。

★電柱や電線の状態に日頃から注意を

- ◆傷んだ電柱・ゆるんだ電線
- ◆老朽化した樹木（強風で倒れる恐れ）
- ◆樹木や枝が電柱や電線に接触している・・・など

樹木の状態に日頃から注意し、問題があれば早めに対応しましょう。

公道に植樹された樹木（桜並木の桜など）は土木事務所に、民地の植木等は原則として所有者の責任ですが、電線に絡まった樹木の枝などは東京電力に相談できます。（NTT は所有者の費用負担で対応します）

この画像はイメージです



あ と が き

地域の様々な情報をタイムリーに発信して行きたいと思っておりましたが、準備不足で6月に第1号を発行してから半年がたってしまいました。身近な、役に立つ情報を集め、親しみやすい紙面にしようとしていますが、力不足を感じています。皆様のご助言やご協力を頂いて記事の内容や発行頻度などを改善しようと思っています。今後も皆様からのご寄稿やご意見を歓迎します。

広報編集委員 櫻井條太